

# 捕獲から利活用まで総合的なシカ対策を実施！

## ～新温泉町～

### 課題

- イノシシの個体数は減少傾向にあるものの山間部を中心にシカの個体数は高止まり傾向にあり、特に捕獲員がいない地区では農作物の被害が著しい。
- 捕獲員の高齢化が進み担い手の確保・育成が急務。
- 捕獲鳥獣のジビエ利用の更なる拡大。



### 取組内容

#### 【町の捕獲員確保対策】

- 令和4年度策定の鳥獣被害防止計画に基づき、有害鳥獣の捕獲に従事する者（捕獲員）に対し、免許の取得・更新、捕獲用具の取得等にかかる経費等の一部を補助。捕獲員は令和3年の74名から令和7年2月末現在で98名と24名増加。



ICTを活用した大型箱わな

#### 【捕獲員不在地区の対策】

- 町が令和5年10月からそれぞれの地区にICTを活用した大型箱わな※を順次設置。町職員（わな猟免許所持者）がわなの設置から捕獲シカの処理施設への搬入まで実施。現在までシカ73頭を捕獲（R8年2月末）。

※ 大型箱わなは、ICTによる遠隔監視操作及び自動捕獲システムを備え、獣が侵入するとセンサーが反応し、町職員のスマートフォンに通知が届く。当該通知のリンクをクリックするとライブ映像を確認でき、映像を確認しながらスマートフォンの「捕獲」ボタンを押すとゲートが閉まり、捕獲できるシステムとなっている。



ライブ映像

#### 【ジビエ利用の拡大】

- 町は令和元年、町南部に位置する塩山地区に鳥獣処理施設①を設置しジビエ利用を開始。年々処理頭数は増加傾向にあったが、町北部で捕獲した鳥獣は処理施設まで距離があり活用が進んでいない。
- このため、更なるジビエ利用拡大に向けて町が令和7年4月に町北部の指杭地区に大型冷凍庫を整備した鳥獣個体一時保管施設②を設置。
- 更に民間業者が町の支援を受け令和7年5月に石橋地区に廃校を改修した処理施設「奥八田杜の鹿工房」③を開設。
- これらの処理施設では捕獲鳥獣を食肉やペットフードに処理・加工。町は、ふるさと納税の返礼品にも活用。



①鳥獣処理施設



②一時保管施設



③奥八田杜の鹿工房

### 成果と今後の目標

- 捕獲員の確保対策を強化したことによりシカの捕獲頭数は増加。捕獲頭数増加に比例して町内のシカによる農林業被害面積は令和3年度の29.69haから令和6年度には9.57haとなり約1/3に減少。
- ジビエ利用割合は、令和7年度に一時保管施設や民間処理施設の整備を行ったことで85%となり前年度比16ポイントの増。
- 今後は、ICTを活用した大型箱わなの増設や捕獲技術向上に向けた研修の開催等捕獲対策の強化を図る。

#### ◎シカの捕獲数とジビエ利用状況（R3年度～R7年度）

| 年度         | R3年度  | R4年度  | R5年度  | R6年度  | R7年度  |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 捕獲頭数①      | 1,342 | 2,598 | 3,297 | 2,980 | 2,537 |
| ジビエ利用頭数②   | 824   | 1,346 | 1,921 | 2,051 | 2,150 |
| 埋却等        | 518   | 1,252 | 1,376 | 929   | 387   |
| ジビエ利用割合②/① | 61%   | 52%   | 58%   | 69%   | 85%   |

※R7年度はR7年12月末時点、ジビエ利用頭数には鮮度等の理由により未利用の頭数を含む